

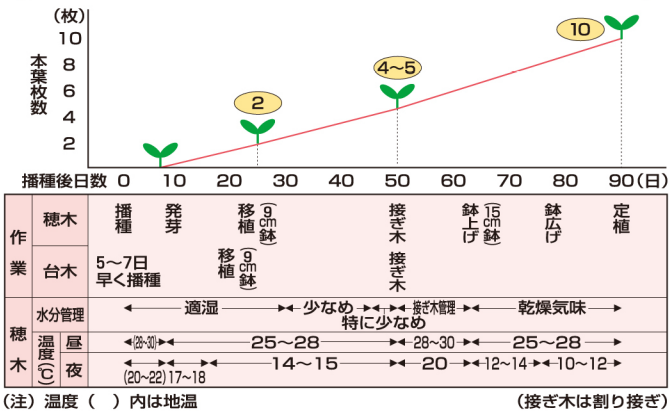
タキイのナス栽培マニュアル

地域		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
露地	冷涼地			●	●		×		×				
	中間地		●	●		×		×					
	暖地		●	●		×		×					

適期表記号説明

- : タネまき
- : 育苗期
- : 生育期
- × : 定植
- : 収穫期
- : 適宜播種可能

ナスの育苗管理



鉢上げ

販売されている苗は、9cmポット（本葉6~7枚）の若苗が多いので、12~15cmポットに鉢上げして1番花が開花する直前まで育苗するとよいでしょう。小さなポットで育苗すると根が巻いてしまい、定植後も草勢が強くなりません。連作による土壌病害を防ぐため、接ぎ木苗を利用すると上作が期待できます。



12~15cmポットに鉢上げし、定植適期まで育苗する

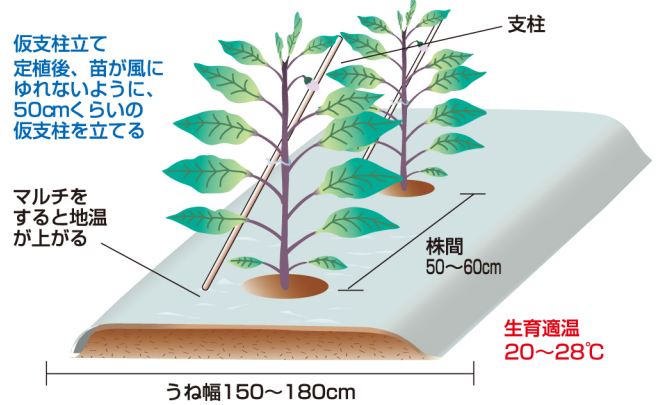
ナスの定植適期苗

1番花の蕾がふくらんで紫色に着色し始めたところが適期です。蕾の小さな若苗定植は定植後の過繁茂になりやすく、1番花が咲き終わっているような老化苗定植では、活着不良になりやすくなります。



ナスの定植

定植時期の目安は、晩霜の心配がなく最低気温10℃以上、最低地温15℃以上になったところです。一般地の露地栽培では5月上中旬ごろ、トンネル栽培では4月中下旬ごろになります。老化苗定植や植え傷みで活着不良になった場合は、薄めの液肥を数回あたえるか1番果を摘果して、草勢の回復を図ります。

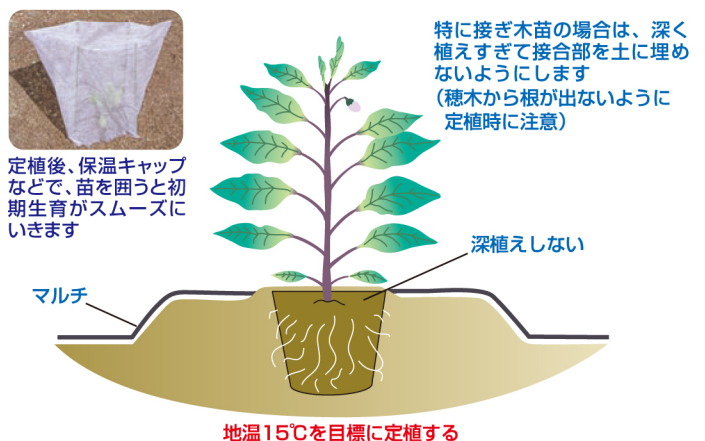


施肥量

元肥の量は目安として10㎡当たり成分量でチッソ、リン酸、カリとも200~300gを施用します。ナスは多肥を好むので、肥効が長い期間続く肥料を使うとよいでしょう。

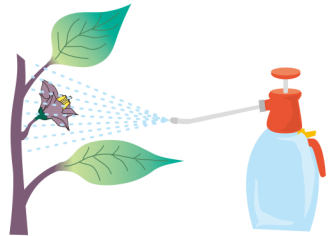
定植のポイント

活着の良否がその後の生育に大きな影響を及ぼすので、定植は晴天の午前中に行います。あらかじめ鉢に十分灌水しておき、植え穴にもあらかじめたっぷりと灌水しておきます。水分と地温を確保するためにマルチを利用すると効果が高くなります。マルチングは植え付け7~10日前までに行き、十分に地温を確保しておくこと定植後、苗の根の伸張がよくなります。



ホルモン処理

初期の草勢のバランスをとるためには、まず1番花を着果させることが大切です。定植後6月上旬までは、まだ夜温が低くて着果しにくいので、3~5番花ぐらいまではホルモン処理で着果させます。1~3番果ぐらいまで順調に着果させると草勢が落ち着き、成りぐせがついて、その後はホルモン処理をしなくても着果していきます。



追肥と灌水

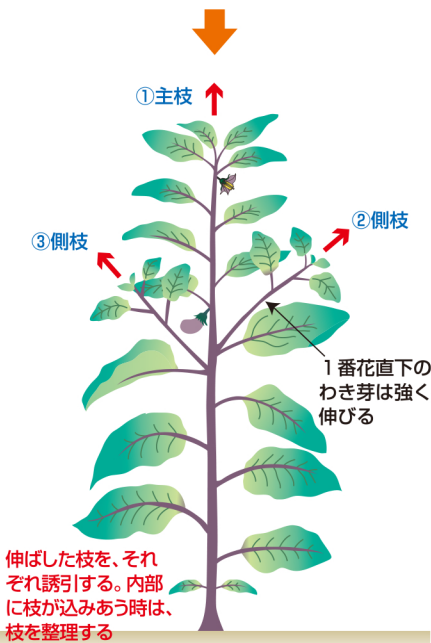
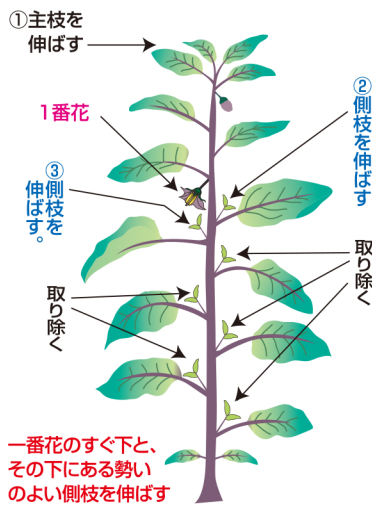
●追肥

追肥は1番果の収穫時期に、速効性の化成肥料を10㎡当たりチッソ成分で30g施します。その後は10~14日間隔を目安としますが、草勢に応じて追肥間隔を調整します。10㎡当たりチッソ成分で10gの液肥を灌水代わりに、5~10日おきに与えてもよいでしょう。

●灌水

梅雨明け後の高温と乾燥は、ナスにとって好ましくありません。敷きワラなどをして地温の上昇とうねの乾きをやわらげるとともに、乾燥したときはうね間に水をたっぷり与えます。うね間灌水は夕方に行い、翌朝には水がうね間にたまっていないようにします。

仕立て方(3本整枝)

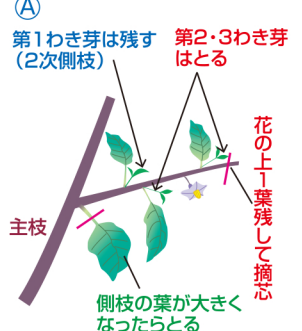


側枝の剪定方法

①収量重視の場合

側枝をある程度放任とし、花数を増やして収量の向上を図ります。整枝は細めの側枝を間引くように随時行いますが、梅雨明け後は過繁茂による成り疲れから、秀品率が低下しがちなので、更新剪定ないし強剪定で秋からの収穫に備えます。

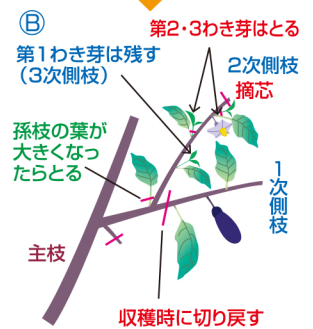
切り戻し剪定



②品質重視の場合

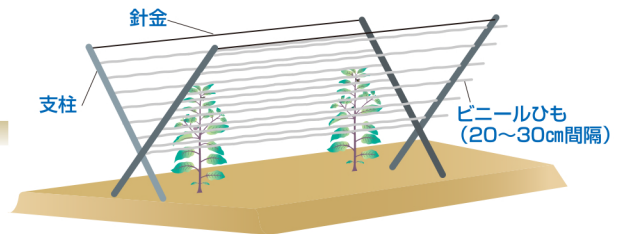
①1次側枝の1花目の先端に葉を1枚残して摘芯し、収穫の際、下の図のように主枝に近い2次側枝を1芽残して切り戻します。

②残した2次側枝が伸びたら同じように摘芯、収穫、切り戻しを繰り返します。こうすれば着果負担が少ないので、栽培後半まで草勢が安定し、品質のよいものが収穫できます。



誘引の例

枝が垂れないように、支柱とひもを使い誘引します



草勢を判断する方法

長花柱花



柱頭(長い)

中花柱花



柱頭

短花柱花



柱頭(短い)



健全

柱頭と、長花柱花とって柱頭が上に出ているのが正常



栄養が不足しつつある

栄養不足や日照不足、高温などで草勢の弱まった時は、短花柱花(柱頭が短い花)が多くなって落花が増えることになります。速効性の肥料を追肥するとよいでしょう。



栄養不足

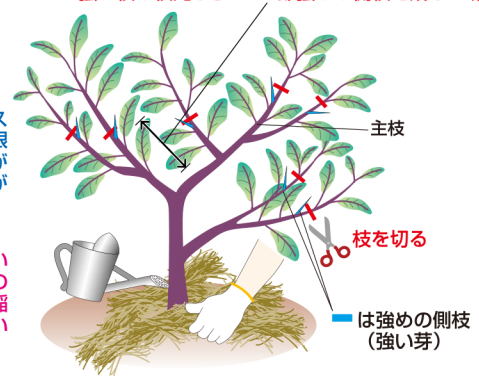
更新剪定

真夏には暑さと乾燥で品質が低下しがちです。そこで、枝を切り戻して新しい枝を出させると、秋ナスの収穫をすることができます。各主枝を強い芽が残るように3分の1から2分の1の長さに切り戻します。

更新剪定は7月中旬~8月上旬までの間に行い(時期が遅くなればなるほど緩く切り戻し)、追肥と灌水を十分施すことで枝を更新させます。剪定後、半月ほどで力のある花が咲き、1ヵ月後には品質のよい秋ナスの収穫が始まります。

強い枝の枝元から2~3節強めの側枝を残して切る

株のまわりに、スコップを入れて根切りすると新根が早く出て、側枝がよく発生します。



剪定後追肥を行います。乾燥防止のため、刈り草や稲ワラも足すとよいでしょう。